

## 米国上下両院で「法輪功保護法案」提出

米国会上院議員テッド・クルーズ氏は3月3日、上院で「法輪功保護法案」を提出した。この法案は中国共産党（以下、中共）による法輪功学習者（以下、学習者）からの強制的な臓器収奪に関与した個人や共謀者への制裁、中共への責任追及、および米国内務長官に対して中国の臓器移植政策と実施状況の議会報告を求めるものだ。

テキサス州連邦上院議員クルーズ氏は「中国による学習者への迫害は、宗教の自由と人権に対する弾圧です。中共が国家支援のもとで行っている生体臓器収奪産業は人道に反する行為であり、もっと早期に廃止されるべきでした」と述べた。

この法案はウィスコンシン州共和党上院議員ロン・ジョンソン氏、フロリダ州共和党上院議員リック・スコット氏、ノースカロライナ州共和党上院議員トム・ティリス氏らが共同で提出している。

一方、下院でもペンシルバニア州連邦下院議員スコット・ペリー氏が2月24日に同様の法案を再提出した。前期

の米国議会でペリー議員が提出した「法輪功保護法案」は2024年6月25日に下院を通過している。

### 米議員「見て見ぬふりできない」

ペリー氏は「世界の自由の灯台である米国は、中共が学習者に組織的な拷問、監禁、そして生体臓器収奪を行っている状況下で、見て見ぬふりできません」と強調。さらに米国では移植が必要な場合、待機リストに載って順番を待たなければならないが、中国には待機リストがなく、すぐに学習者から臓器を調達していると指摘し、長い間繰り返されてきたこの慣行を「野蛮」と呼んだ。

下院版の「法輪功保護法案」も超党派で共同提出されており、ニューヨーク州民主連邦下院議員パット・ライアン氏は「我々は、中共の悪の勢力と臓器売買業者が、彼らの許しがたい犯罪行為に対して責

任を負うよう、あらゆる努力をしなければなりません」と述べている。

法案が上下両院で可決されれば、米国大統領の署名を受け、法律としてただちに発効される。



■上段左から米連邦議会上院議員テッド・クルーズ氏、米連邦議会上院議員ロン・ジョンソン氏、同リック・スコット氏、同トム・ティリス氏、米連邦議会下院議員スコット・ペリー氏、米連邦議会下院議員パット・ライアン氏

## 広島市の法輪功学習者 中央公民館フェスティバルに参加

広島市の学習者は3月2日、広島市の中央公民館で開催された第24回中央公民館フェスティバルに参加し、五式の功法と腰太鼓の舞いを披露して好評を博した。

このフェスティバルは毎年3月の最初の週末に開催される地域の恒例行事で、芸能パフォーマンスや作品展示、バザー、体験コーナーなどが設けられ、多くの地元住民で賑い、活気にあふれていた。

午前中、学習者たちはステージで五式の功法を実演し、法輪功を紹介。司会を担当する学習者は



■ステージで五式の功法を実演

「法輪功は世界中で1億人以上の人に親しまれており、多くの人が病気の回復、ストレス軽減、活力増進など心身両面での

健康効果を体験しています」と説明した。会場の観客も一緒に煉功を行い、和やかな雰囲気となった。

午後には気功体験会が開催され、参加した市民たちからは好評の声が寄せられた。初めて法輪功を体験した田坂陽子さんは

「ゆっくりとした動作なのに、エネルギーを感じて身体が熱くなり、びっくりしました。心も穏やかになり、気功の奥深さを感じました」と感想を述べ、今後も中央公民館の気功教室で学び続けたいと語った。

功法を指導した学習者は「法輪功の五式の功法は、私達の心身に良い影響を与えるエネルギーで満たしてくれます。疲れやすい現代社会で、心身ともに癒してくれる素晴らしい功法なので、ぜひ多くの方に体験していただきたい」とコメントした。



## 米SF「聖パトリック・デー・パレード」主催者と観客は法輪功に感謝

米国サンフランシスコのバイエリアの学習者は3月15日、サンフランシスコで開催された第174回「セント・パトリック・デー・パレード」に過去最大規模の陣容で参加した。

法輪功チームは功法実演、腰鼓隊、米国西海岸天国楽団、華やかなフロート車で構成され、観客から温かい歓迎を受けた。法輪功の隊列がメインステージを通過する際、司会者は「法輪功の隊列です。彼らは功法の実演、腰鼓隊、華やかなフロート車、そして天国楽団で構成されています。彼らが私たちのパレードに参加するのは、今年で15年連続です。彼らの隊列は本当に美しいです。さあ、拍手を送り、応援しましょう」とアナウンスした。

フィンランドから観光に訪れたミンナさんは「今回私は法輪功の隊列を初めて見ました。とても美しいです。私は真・善・忍が好きで、素晴らしいと思います」と話し、夫



■第174回「セント・パトリック・デー・パレード」を通じて法輪功のメッセージを観客に伝える法輪功チーム

のサミさんも「この隊列は素晴らしく、斬新で感動的です。私たちには本当に真・善・忍が必要です。とても奥深く、重要な価値観です」と感想を述べた。

### 高校生「真・善・忍が好き」

サンフランシスコの高校生たちも法輪功の隊列の平和で

穏やかな雰囲気共感。ジャックさんは「私は真・善・忍が好きです。社会でできる限り善を広めることは、人々に喜びをもたらします。人々は希望を失わず、前向きに生きることができるようになり、社会を良くします」と語った。ヤコブ・ハグさんは「私は真・善・忍がもたらす平和的なエネルギーが好き

で、世界をより良くするでしょう」と讃え、自ら進んで沿道で法輪功の資料配布を手伝った。

サンフランシスコ州立大学1年生のシャネル・ゴディさんは「とても素晴らしいと思いました。彼らは本当に素敵で、色彩も美しいです。真・善・忍には内面的な美しさがあり、パレードを見て、その

価値観が表現されているのを感じました」と感想を述べ、「もっと多くの人が法輪功について知るべきだと思います。こんなに美しい功法をもっと知ってほしいです」と話した。

ネパールからの旅行者ビベックさんは「特に腰太鼓隊の演奏に心が強く引き付けられました。彼女たちはとても楽しそうで、生き生きとしていました」と述べた。アンドレアさんとイザベルさんは学習者の煉功の動作を真似て「心地よく調和のとれた感覚をとても強く感じました。真・善・忍は世界に素晴らしさをもたらし、すべての人がそれに従うべきです」と感動を語った。

地元住民のジム・ビスタさんは「真・善・忍は精神的な豊かさを与えてくれます。フロート車に乗っている蓮の花もとても美しい」と称賛し、中共による法輪功迫害について「迫害は間違っています。人々は自由を持つべきです」と語った。

## 韓国ソウルで9日間の勉強会「宝の書を手にした」

韓国ソウル市竜山区の天梯（てんてい）書店では、毎月「法輪功の九日間セミナー」を開催している。1月15日に終了したセミナーでは、参加者たちが修煉体験を分かち合った。

60代の朝鮮族の李さんは、友人の紹介で法輪功を始めた。「当時私は体調を崩していて、友人が『法輪大法は素晴らしい』と唱えるよう勧めてくれました。試しに唱えると、心が晴れ晴れとし、体がとても気持ちよくなりました」と語る。

李さんは唾液腺炎、鼻炎、糖尿病などを患い、いつも体が弱く、朝10時前には起きられないのが普通だった。しかしセミナー期間中は毎朝5時に起床しても疲れを感じず、むしろ活力に満ちていたという。また『轉法輪』を全て読み終え、心身ともに特別な変化を感じた。

李さんは中国にいた頃から法輪功の肯定的な評判を聞いていたが、1999年に中共が迫害を始めた後、罪のない近所の人たちが連行されたというのを聞いて恐ろしく感じていた。

2001年の「天安門焼身自殺事件」の報道も信じ、法輪功を避けていたという。「韓国に来て、友人が法輪功で大きな変化を遂げたのを見て驚きました。この友人のおかげで法輪功を学び、内なる平安と調和を得ることができました」

### 『轉法輪』の内容が心に響いた

88歳のパク・ゲンソプさんは、数年前に法輪功のチラシを見て興味を持ち、今回のセミナーに参加した。「高齢なので、少し遅すぎるのではないかと思います。それでも法輪功を修煉したいです。最初『轉法輪』を読んだ時は



■ソウル天梯書店の九日間セミナーに参加した新規学習者が、第二功法「法輪樁法」を学ぶ

あまり理解できませんでした。再度読むと徐々に内容が心に響くようになりました。全力を尽くして最後まで修煉するという思いでセミナーに参加しました」と語った。

75歳のチョ・スンヨンさんは10年前に法輪功に出会ったが、迫害の写真を見て誤解し

ていた。しかし『轉法輪』を読んで考えが変わった。「初めて『轉法輪』を読んだ時、衝撃を受けました。私がずっと知りたかった答えが全て書かれていたのです。多くの宗教書籍や心性修養の本を読みましたが、それらを全て合わせてもこの一冊には及びません」

読書後、毎日焼酎を3杯飲んでいて、チョさんは完全に酒を断った。セミナー参加前に臀部の膿瘍で手術を考えていたが、3日目には縮小し始め、終了時には完全に消えていたという。「10年前に抱いていた純粋な気持ちを取り戻したい」と話し、今年は中国語版を読みたいと語った。



## 『轉法輪』出版30周年 日本人学習者の声

法輪功の主要書籍『轉法輪』は、1995年1月に中国で初めて出版された。1999年には日本語訳も出版された。この本は過去30年間で50の言語に翻訳され、世界中の何億人もの人々に読まれてきた。さまざまな人種や背景を持つ人々の心に響く本とはどのようなものなのだろうか？

『轉法輪』を読んだ日本の学習者たちが健康を回復し、道徳が向上した体験談を紹介する。

### 3回の気功教室に参加した後、腎臓が回復した

2021年、川村さんは動画を視聴して法輪功という精神修養の修煉法と、法輪功に対する迫害の真実を知り、衝撃を受けたという。迫害に屈しない強い覚悟に感銘を受けた川村さんは、さっそく電話して功法を学ぶ場所に行った。

コロナ禍の影響で煉功と学法は月3回の参加だったが、川村さんは弱っていた腎臓が回復していることに気づいた。「当時の腎臓の状態はとても悪く、深く呼吸する必要



■6000人の台湾学習者による人文字『轉法輪』（2009年11月）

がありました。ふくらはぎもむくんでいて、いつも背中の腎臓がある辺りをさすっていました。通い始めて3回目、参加者と交流している時、さすっていない自分に気づきました。むくみもなくなり、呼吸が安定していることに気づきました」

健康面のほか、人生の中でも法輪功との出会いを運命的に感じたという。「『轉法

輪』に書かれている論語を初めて読んだとき、永遠と一瞬が同時に存在し時間の概念を超越したかのように感じ、美しい音楽が聞こえたかのような感じがしました。私はずっと出会いたいと思っていたものが法輪功であり、それを説明する本が『轉法輪』であることに気づきました」

「『轉法輪』を読み始めた

頃は、老眼鏡をかけないと読めませんでした。今は裸眼で読めます。ある章を読むと、涙が止まりません。真・善・忍に同化したいという気持ちが強くなります。これからも読み続けます。師父が私を修煉の道に導いてくださったことに感謝しています」

**感謝の気持ちを持ち、苦痛を与えた家族を許す**

70代の篠原さんは、人生の大半を苦難のなかで過ごしたという。結婚後、義理の両親と同居したが、姑からは冷たく扱われ、夫は子育てをせず、飲酒や借金問題を起こしていた。職場でもいじめに遭った。辛い環境によって30代で喘息を患い、薬を服用していたという。

しかし、その後も健康状態は改善せず、むしろ悪化していった。「そんな時、法輪功に出会いました。無料の気功法があると知り、とても嬉しかったです。煉功を始めてから体調は良くなり、発作も止まり、熱も出なくなりました」と語った。

心の変化についても語る。「かつて耐え難い苦痛をもたらした義母（故人）と夫を許すことができたことです。『轉法輪』を読んで、私はなぜ自分がこんなに惨めな思いをしていたのか理解できました。感謝の気持ちでいっぱいです。師父、ありがとうございます」

## 薬物と窃盗を繰り返した東欧の青年 清き心を知る

東ヨーロッパのモルドバ出身のボグダンさん（27歳）は今では穏やかで礼儀正しい人物だが、かつては学校を中退し、薬物依存を患う非行少年だった。両親に追い出されてホームレスとなり、車の窃盗で生計を立てていた。追及する警察に発砲されたり、刑務所に収監されたりした過去を持つ。

2021年、ボグダンさんは出所後に街で出会った女性から、中共による学習者からの生体臓器収奪を止めるために国際社会に支援を求める請願書を渡された。「私は薬物使用や車泥棒をしていますが、わずかな良心が残っていました。生きている人の臓器を盗み殺すことは絶対に止めなければならないと思いました」と振り返る。

署名後、女性は法輪功の紹介パンフレットを渡した。「座禅がかっこよく見えたので学びたいと思いました。まさかこれが自分の性格や人生

を完全に变える修煉方法だとは思いませんでした」

4年が経ち、ボグダンさんはタバコも酒も薬物もやめ、罪を犯すこともなくなった。「最初は座禅で集中力や知能が向上したら、もっと上手に車を盗めるとしていました。でも『轉法輪』を読み終えた後、自分の行為が自分自身や家族を傷つけていると初めて認識しました。真・善・忍に従って自らを律し、他人のために考えなければならぬと思うようになりました」

### 激しい痛みが消えた

彼は治療施設に行くことなく、6カ月で薬物依存を克服した。「煉功をすると、体が浄化されているような感覚がありました」。警察官の銃弾による腕、肩、背中の激しい痛みも『轉法輪』を読むうちに消えていった。

中国文化への愛が芽生えたボグダンさんは独学で中国語を学び、1年後には『轉法輪』を中国語で読めるように



■ボグダンさんご本人

なり、今では流暢に話せるまでになった。

現在はレストランでシェフとして働いている。上司との金銭トラブルでは、上司から冷遇されても穏やかに対応し「あなたは自分の力で生きるべきで、他人のお金を返済せず精神的に他人を傷つける

べきではない」と諭した。感動した上司は全ての借金を返済し、親友となった。

修煉前、ボグダンさんは犯罪を犯すと必ず捕まっていたことを思い出し「罪業が清められる過程だった」と気づいた。「師父は『修煉者として、常人の中で遭遇した一切

の苦悩は、みな関を乗り越えることであり、遭遇した一切の褒めたたえは、みな試練なのです」と教えています。私は自慢せず、むしろ欠点を指摘してもらいたいと思います。師父が私を修煉の道に導かれたことに感謝しています」と述べた。



# 専門チームの調査結果、病気治療の有効率97.9%

1992年5月13日、法輪功（法輪大法とも呼ばれる）の創始者・李洪志氏は中国の長春市で心身を鍛える精神修養法を伝えた。

その「真・善・忍」の教えは人々の道徳の向上を導き、五式の動作は健康回復に顕著な効果があると口コミで広がった。そして大多数の法輪功学

習者（以下、学習者）は短期間で病気が良くなり、体が軽い状態を取り戻すことができた。

以下では、広東省の12,553人の学習者を対象として、医師や医学教授等の専門家で構成されたチームによって1998年9月に実施された調査結果を紹介する。

**有効率が97.9%**

調査対象は、男性が27.9%、女性が72.1%。50歳未満が48.4%、50歳以上は51.6%。一種類以上の疾病を患っていた学習者は10,475人で、2～3カ月から2～3年という期間を経て、全治および基本的に回復したのは77.5%だった。症状が好転した20.4%を加えると、健康回復の有効率は97.9%に至る。

7,170人の学習者が1年間に節約できた医療費は、合わせて1,265万元（約2.5億円、1998年の都市部労働者の平均賃金は約15万円）。89.4%の学習者は法輪大法を通じて精神状態が落ち着き、道徳が向上したという。徹底的な自我の抑制と向上も見られた。

**多くの人が実感した不思議な現象**

**一、驚異的な改善のスピードと効果**

多くの学習者は、法輪功を学んで心身ともに改善した。しかもそのスピードと効果は驚異的であった。李先生の講義を聞いてから、あるいは自宅で法輪大法の書籍を読んでから3～5日以内に病気の症状が消え、全身が軽くなった者もいた。大多数は数カ月あるいは1～2年以内に病気の症状が完全に消えたか、好転した。調査対象の12,553人のうち、98%は数年以内に病気治療と健康保持の効果が現れた。一方で、2%の学習者が表面的に効果がないと回答した（ただしその中には、煉功を始める前にもともと元気だった学習者も含まれる）。

**二、現代医学の奇跡**

多くの学習者は、「薬土瓶」（常に薬を飲む人のこと）か、

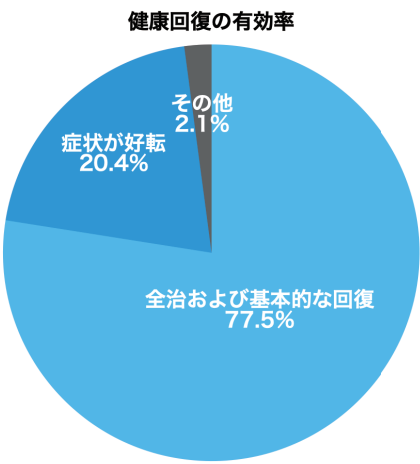
あるいは病院の常連だった。煉功を始めてから間もなく、薬を飲むことも注射もしなかったが、病気が悪化したり、再発したりせず、かえって身体状況はますます良くなった。

**三、不治の病も回復**

学習者の一部は医学的に頑固な病気、不治の病、あるいは診断できない病気を患っていた。しかし法輪功を通じて、奇跡的に回復した。

**四、若返り**

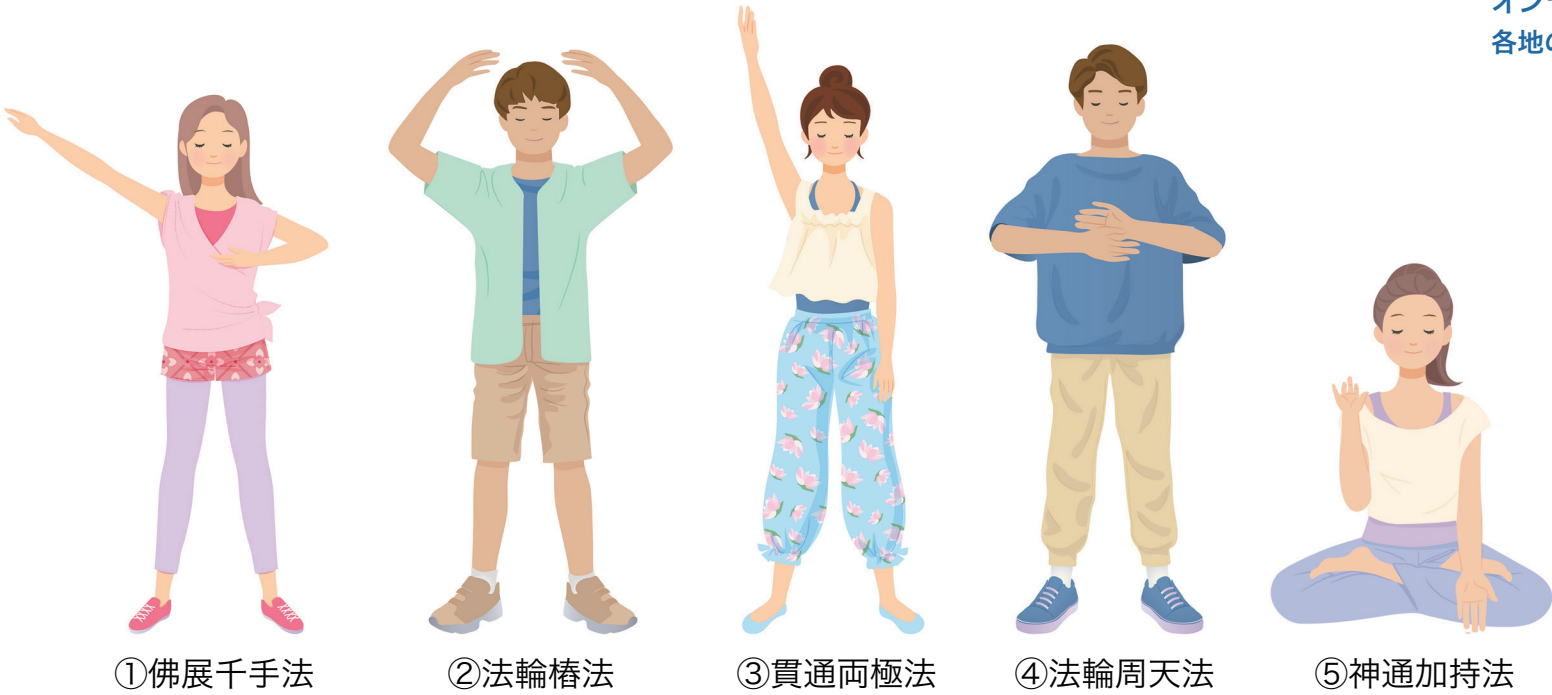
病症が消えただけでなく、体が若い方向へ戻る現象が現れた。年配の学習者の皺が少なくなり、髪の毛が黒くなり、顔色に赤みが差したり、皮膚に張りが出てつるつるになる現象が現れた。特に解釈できないのは、多くの年配女性に生理が戻ったことだった。



## 心と体を鍛える法輪功 5セットのエクササイズ



オンラインレッスン  
各地の無料気功教室



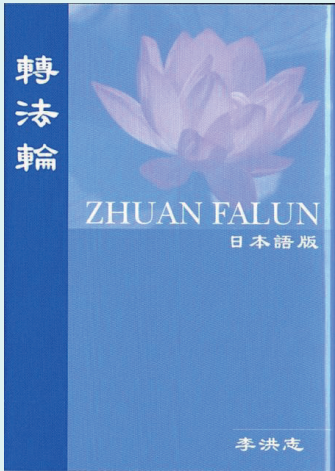
**『法輪功』（ファールンゴン）**  
1993年に中国で発売され反響を呼んだ話題の一冊。心身ともに健康になる中国伝統の気功修煉法「法輪功」の入門書。



無料で読む



書籍を購入



**『轉法輪』（ジュワンファールン）**  
1996年に中国北京でベストセラーとなった。「真・善・忍」を理念とする法輪功の修煉を、体系的に指導する最も主要な書籍。



無料で読む



書籍を購入



# 法輪功学習者8人が迫害で死亡と判明

2025年2月に判明したところでは、法輪功学習者（以下、学習者）8人（女性6人、男性2人）が中国共産党（以下、中共）による長期の迫害を受け、冤罪で死亡した。8人とは、①山東省煙台市・林建平さん（63歳女性・2025年死亡）、②河北省三河市・魯春楊さん（63歳男性・2025年死亡）、③山東省諸城市・盧桂娟さん（73歳女性・2025年死亡）、④広東省河源市・邱漢濃さん（66歳女性・2024年死亡）、⑤山東省・胡克玲さん（60歳女性・2024年死亡）、⑥山東省淄博市・王玉玲さん（74歳女性・2024年死亡）、⑦河北省秦皇島市・左洪濤さん（67歳男性・2024年死亡）、⑧黒竜江省・韓淑娟さん（60歳女性・2023年死亡）。

## ①林建平さん

2022年2月、法輪功への迫害について伝えたことで逮捕され、不当に懲役3年の実刑判決を受けた。度重なる迫害を受けた林さんは2024年10月に刑務所に連

行され、今年2月に死亡した。

## ②魯春楊さん

法輪功への信念を堅持したために、長年にわたり中共による迫害を受け、今年1月に死亡した。魯さんは二度の刑事拘留、三度の家宅搜索、洗脳センターでの拘留、暴行などといった度重なる迫害を受けた。2015年、迫害の首謀者である江沢民を告訴し、自身だけでなく家族も迫害された状況を訴えた。というのも妻の厲永蓮さんも学習者であり、法輪功への信念を堅持したために教師の職を失い、20年以上にわたって迫害を受けていた。

## ③盧桂娟さん

25年間にわたる中共からの度重なる迫害、具体的には7回の不当な拘束、3回の洗脳センターでの拘禁、3年間の労働教養、6年半の懲役、多額の罰金や家宅搜索による財産の没収など、肉体的、精神的に深刻な苦痛を受けた。2010年に夫とともに不当な判決を受け、刑務所で迫害を受けて

体に深刻な傷害を負い、今年2月に死亡した。

## ④邱漢濃さん

法輪功への迫害の実態を伝えたために合計7年3カ月の不当な判決を受けた。広東省女子刑務所で迫害を受け、重病に陥るまで迫害された邱さんは、2024年12月に死亡した。

## ⑤胡克玲さん

法輪功への信念を堅持したために中共から長年にわたる迫害を受け、2024年11月に死亡した。胡さんは7回も不当に拘束され、3回の洗脳センターでの拘禁、2回の拘置所収容、そして精神病院への強制入院など、非人道的な扱いを受けた。2002年9月から萊西第二病院に4カ月以上にわたって閉じ込められて迫害を受けた。

## ⑥王玉玲さん

法輪功への迫害の実態を人々に伝えたために逮捕され、精神病院への強制入院や労働教養所での迫害を受けた。2022年には、刑務所で法輪功への信念を守り続けたために暴行や薬物投

与などの迫害を受けた。出所後も苦しみ、2024年10月に死亡した。

## ⑦左洪濤さん

2017年6月に不当に逮捕され、懲役13年の判決を言い渡された。妻の崔秋榮さんも懲役1年余りの判決を受けた。2024年7月に体調が急変し、翌月死亡した。

## ⑧韓淑娟さん

法輪功への信念を堅持したために中共から長年にわたる迫害を受け、2023年7月に死亡した。韓さんと夫の石孟昌さんは度重なる連行、拘留、家宅搜索、労働教養、不当な判決、洗脳センターへの連行など、過酷な迫害を受けた。韓さんは合計6年3カ月以上、夫の石さんは合計8年4カ月以上も不当に拘束された。2人の子供は両親が投獄されたため、高校に進学できず、16歳から働いて生計を立てざるを得なかった。2012年1月には韓さんの父親が、2015年には義父が、そして2023年1月には義母が中共の迫害によって死亡した。



■①林建平さん



■②魯春楊さん

## 王香玲さん（85）らに不当判決 山東省

山東省巨野県では、学習者で85歳の王香玲さんと61歳の劉秋霞さんが不当な判

決を受けた（王さんは懲役1年、劉さんは懲役1年6カ月）。2024年7月、巨野県内

の派出所が学習者への一斉家宅搜索を行った。そして

王さん、劉さんら複数人の学習者が連行された。

王さんと劉さんは2024年11月に起訴され、2025年2月に鄆城県裁判所で不当な懲役刑を言い渡された。2人は現在、荷沢市留置場に拘禁されているが、判決を不服として控訴した。また、巨野県の馬秀芹さん（70代女性）や鄆城県の崔軍さんから6人の学習者も同様に不当な判決を受けたが、全員が控訴した。

### 不当拘禁中に強制労働

王さんと劉さんは、中共による法輪功への迫害が始まった1999年以降、長年にわたって迫害を受けてきた。王さんは、北京へ陳情に行った際に殴打され、労働教養所に3年間拘禁され

た。そこでは毎日、朝から夜12時まで糸を切る作業を強制され、めまいと首の痛みに苦しんだ。

劉さんは、複数回にわたり連行、拘禁され、労働教養所では壁に向かって立たされ、食事と寝る時以外は一日中、掌大のベンチに座らされた。24時間監視され、每晚12時に就寝し午前3時に起床しなければならなかった。排便は2分、排尿は1分など、排泄時間に制限を設けられ、手を洗うことも許されず、誰とも話すことを許されなかった。また、法輪功の学習を放棄するように強制され、反論すると殴られ、ハイヒールでふくらはぎを蹴られた。また、法輪功を誹謗中傷するビデオの視聴の強制を拒否すると、殴打されたという。





# 米外交誌 中共による越境弾圧を指摘

米外交誌『ザ・ディプロマット (The Diplomat)』は今年2月24日、ジャーナリストのタスニム・ナジール氏の記事(以下、同記事)を掲載した。同記事では、中国共産党(以下、中共)が世界の世論に影響を及ぼし、また法的論争を利用して法輪功学習者(以下、学習者)を沈黙させ、その信用を失墜させ、国際的擁護を根絶しようとしていると指摘した。

## 国家主席による指示か

同記事のタイトルは『中共の漏洩文書 反体制派への世界規模の弾圧を暴露』。2022年に習近平国家主席が出席した中共の政法委員会(治安・司法等の統括機関)のハイレベルな会議について漏洩した文書と内部関係者の証言によると、同国家主席は「法輪功の海外活動を無力化

できなかったことについて不満」を表した。そして「法輪功の勢いを国際的な規模で完全に抑圧」する取り組みの強化を指示したという。

## 海外メディアへの贈賄

元北京大学法学教授で中共戦略の専門家である袁紅冰氏によると、中共は、編集長や記者、著名なジャーナリスト等のメディアの重要人物に金銭的な賄賂を渡している。そして「海外メディアに浸透するため、海外統戦基金と呼ばれる資金を確保している。これは海外のさまざまな場所で重要人物に支払うために使用されるものだ」と指摘。「自由民主主義社会の一部のメディアは、法輪功を中傷し、攻撃し、抑圧するための中共の道具に成り下がってしまった」



また、中共のもう一つの手段として、法的論争があげられる。偽りの情報を元に提訴し、法輪功に関わる人々に法的な圧力をかけようとしているのだ。

## 国境を越えた中共の弾圧

2月初旬に米下院国土安全保障委員会が発行した「ナックシュット」では、「米国全土で中共関連のスパイ活動や国境を越えた弾圧行為の事例が急速に拡大」と指摘。

そして過去2年間に中共の指示を受けた様々な人物が起訴された数十件の事例をあげ、中共のために米国政治家

の政治的立場に影響を与え、非公開の「(中共の)海外警察署」を運営し、米国に拠点を置く反体制派をスパイした事例を報告した。

反体制派を封じ込める中共の取り組みは国境を超え、世界の自由、人権、民主主義社会に深刻な脅威を与えている。

# デンマークの「人体標本展」の出所に疑念

デンマークの複数の都市では2024年11月から2025年3月にかけて、ドイツの企業による「人体標本展」が開催された。しかし主催者は、この展示された人体標本の出所を証明できず、デンマーク各界から疑念の声が上がっている。

## 自発的な提供に疑念

デンマーク民主党の幹部で宗教委員会の委員長であるソーレン・エスパーセン氏は2月19日、文化大臣にこう質問した。「すべての遺体、遺体の一部が自発的に提供され

たものであり、例えば独裁政権下で処刑された囚人や違法な臓器売買に由来するものではないと確実に判断できますか？」

一方、ラナース市の健康・文化・福祉部長トーマス・ク

ラルプ氏は当局宛の通知で「遺体がすべて自発的に、明確な目的のために提供されたものではないのではという疑念があり、この展示会は様々なところで批判されている」とした。

## 会場の貸し出しを拒否

展示会社は遺体の出所に関する法的な証明を提出しなかったため、ラナース市の展示ホール(アリーナ・ラナース)は会場の貸出を拒否。ラナース市での開催は中止となった。

## メディアが出所不明を報道

デンマークの新聞『クリスチャン・デイリー』は、「デンマークの都市で遺体が展示されているが、どこから来たのか誰も答えられない」と記事(以下、同記事)を掲載。同記事によると、中国で法輪功は25年にわたって迫害されており、何千人もの学習者が刑務所に拘禁され拷問を受けたという証拠があることから、多くのデンマークの人々が「遺体は中国人の囚人では

ないか」と心配しているという。

## 骨に傷跡

中共による法輪功への迫害に反対する署名活動の際、ホルセンス市で1人の女性が遺体について次のように語った。「とても不快に感じます。死者への尊厳が全くありません。遺体が展示されることに同意していたのかも分かりません」

また港湾都市のフレデリクスハウン市の署名活動では、2人の女性医師が遺体について「医師として、人体の組織構造を理解しています。いくつかの人体標本の骨に傷痕があることに気づきました。これは亡くなった方が生前、拷問を受けた可能性が高いことを示しています。加えて、遺体の出所や年齢、死因、提供者の意向などの詳細な情報が一切記載されていませんでした」

ある市民は「デンマークで法整備を進めるべきです。そうすれば、今後このような物議を醸す展示が開催されるのを防ぐことができるでしょう」と提案した。

## Kristeligt Dagblad

DANMARK | 27.02.25 KL. 19:00 | K

Døde kroppe udstilles i danske byer. Ingen kan svare på, hvor de stammer fra

Et tysk firma udstiller menneskekroppe flere steder i Danmark, men ingen ved, hvorfra de stammer. Det har nu fået konferencenter til at afbryde samarbejdet, og flere frygter manglende samtykke



Jeppe Schropp

Digital journalist og forsideleder



■デンマークの新聞『クリスチャン・デイリー』の記事



## 【伝統文化】長孫皇后の内助の功

西暦601年に隋王朝の將軍・長孫晟の娘として生まれた長孫皇后（ちょうそんこうごう）は、幼い頃から厳格な教育を受け、学問と礼儀を知り、正直かつ善良な性格でした。占い師には「大地を支え、徳は限りなく、高い地位に登り、その高貴さは計り知れない」と言われました。13歳で当時の太原を守る李淵の次男・李世民に嫁いだ後、若き妻として義理の両親に孝行を尽くし、夫を支えて子を教えました。

### 謙虚と節約

武徳九年(西暦626年)八月、李世民が唐の太宗になると皇后となりましたが、変わらずに謙虚と節約を美德として保ち続け、高齢の上皇・李淵のことも尊敬し、毎朝毎晩の挨拶を欠かしませんでした。後宮の側室たちにも優しく接し、自らの品格で後宮全体に良い影響を与えました。太宗が後宮の紛争に惑わされることなく、国の重要事項に集中できる環境を整えました。長孫皇后は名家の出身でありながら、衣服や日用品に派手さを求めず、食事や宴会も控えめであったため、後宮にもそのような質素な風潮が広がりました。



### 太宗を戒め臣下を救う

天子を諫める役を務める魏徴は、面と向かって直言する勇気のある人物で、太宗の不適切な行動や政策を指摘し、改善を強く勧めてきたことで太宗にも尊敬されましたが、時には細かいことも見逃さずに指摘し、太宗の面子を失わせることもありました。

ある日、太宗は突然狩猟に出かけることを決め、多くの護衛と近臣を連れて郊外へ向かおうと宮門を出る際、魏徴

に出くわしました。魏徴は「今は春の最中で、万物が生まれ育ち、動物が子育てをしている時期ですので、狩猟は適していません。どうか宮殿にお戻りください」と進言し、執拗に出かけようとした太宗の進路を塞ぎました。

怒りを抑えつつ宮殿に戻った太宗は長孫皇后に「魏徴を殺さないで、私の怒りはおさまらない」と言いました。事情を聞いた皇后は何も言わずに部屋に戻り、暫くしてから正装の朝服（ちょうふく）を

着て太宗の前に現れ、厳かに叩頭してこう言いました。「陛下、お祝い申し上げます。賢明な主君にしか直言できる臣下はいないものです。今、魏徴が直言していることから、陛下は賢明であることが分かります。よってお祝いを申し上げたのです」。太宗は納得し、皇后の言葉に感じ入って不快が消え、魏徴への怒りもなくなりました。

### 恩赦を拒否

貞観8年（西暦634年）、長孫皇后は太宗と共に九成宮

を訪れた際、帰路で風邪をひいて持病が悪化しました。皇太子の承乾は、恩赦をもって母の健康を祈ると提案し、群臣が賛同し、魏徴でさえ反対しませんでした。しかし長孫皇后自身は強く拒み、「生死、貧富は運命によって定められるもので、人力では変えられません。囚人を赦すことは国の大事であり、私一人のために国の秩序を乱すべきではありません」と述べ、貞観10年の盛夏に若くして亡くなりました。享年36歳でした。

## 夢での啓示

清（1644年～1912年）の時代に、福建省に杜景行という男がいました。仏教に非常に敬虔であるかのように振る舞い、毎日一杯の茶碗の粗食を摂り、酒も肉も口にしませんでした。平素、彼はもうじき得道して天に昇るのだと言いふらし、家族にも心身を清めその瞬間を待つよう言い含めました。家族は、笑いをこらえながら同意しました。

### 夢の中で

ある日、杜景行はうとうとする中ではっきりした夢を見ました。夢の中で神々が住んでいると思われる場所に行き、そこにいた何人かに歓迎され、一冊の本を読むようにと言われまし

た。しかし本が仏教を批判するものだったので杜景行は怒って立ち去ろうとすると、彼を出迎えた人たちから「本に書かれた道理について詳しい人がもうすぐ来て、説明してくれますから」と引き留められました。すると1人の美女がやって来て、「本の説明をしに来ました。もう少し居てはどうでしょうか？」と笑顔で言いました。

そして美女は杜景行の隣に座って彼のほうにもたれかかり、彼の手首を掴んで一緒に本を読み始めました。彼は気が完全に動転し、頭には美女のことしかありませんでした。彼女が何を言っても、たとえそれが

仏教を批判する本の内容通りであっても、彼女を怒らせまいと沈黙を保ち続けました。その時突然、人々が笑いながらこう言っているのが聞こえました。「凡人の心を取り除かないで、どうして成仏できようか?」。そこで彼は目が覚め、それが夢だと気づきました。

### 恥を知る

それ以降、杜景行は自分が円満成就には程遠いことを理解し、とても恥ずかしくなりました。そして「もうじき得道する」などと大口をたたくのをやめました。

（出典：『螢窓異草』）





# 写真特集



- ① アイルランドの首都ダブリンで元宵節を祝う日に、法輪功への迫害を知ったペドロさんとメインさん（2月8日）
- ② 台湾の「2025樹林の美・新春ランタンフェスティバル」に招待された法輪功学習者（2月15日）
- ③ ニューヨークのブルックリン最大のチャイナタウンのある8番街で雨の中をパレードし、迫害について伝える法輪功学習者（2月16日）
- ④ 法輪功への迫害について伝えるモニカさん（ポーランド）
- ⑤ パリで法輪功への迫害に反対し署名する人々（2月28日）
- ⑥ 豪ビクトリア州メルボルンでベトナム人移民の定住50周年の祝賀会に招待された法輪功学習者（2月22日）

## 『明慧インターナショナル・30周年特別号』



法輪功が1992年に伝えだされてから、世界130カ国、1億人に愛好されている現在までの状況を紹介。

また、迫害制止を求めた勇気ある行動、世界各地からの声援などを掲載。

PDFファイルの無料ダウンロード



## 明慧ダイジェスト発行元

明慧（ミンフイ）ネット  
<https://jp.minghui.org/>  
 メール：editor@minghui.jp

明慧ネット日本語版は、2001年7月に開設しました。

法輪功について紹介、世界各国の活動、学んだ人たちの体験談などを掲載しています。

また、中国における迫害の状況を報告しています。